

▼信号のある交差点では必ず信号に従います。「信号無視による事故も起こっている」ので、必ず信号を守ること」という注意にうなずきます



交通ルールを
しっかり守るぞ



安全確認は
大切だね

◀「交差点での安全確認の仕方は？」と聞かれて「右・左・右です」とジュニア記者。「信号のないところでは、さらに右後方を確認しましょう」



◀ブレーキが効かない自転車では危険な上に、自転車には必ずブレーキの利きをチェックします

「ブレーキが利くか、タイヤに空気が入っているか、ハンドルが真っすぐか、車体はつま先が地面に着く高さか、ベルが鳴るかを順番に点検します。ブ・タ・ハ・シ・ヤ・ベル」と覚えておくといいですね」

まず最初に、福原さんから自転車に乗る前の点検のポイントについて教わりま

す。荒川自然公園の交通園には、実際の道路と同じように横断歩道や信号機があり、自転車の運転を練習できます。

次は浅葉さんから、イヤホンの利用や傘を差しながらの片手運転、二人乗りなど、自転車の乗り方で禁止されていることを教えてもらいました。

鈴木さんから、横断歩道や交差点での右折の仕方などを教わり、いよいよ、実際に自転車に乗っての練習へ。

練習を終えたあと、買い物などによく自転車を利用する飛沢さんは「今までヘルメツトを利用して

と、買った物など、練習を終えたあと、買い物などによく自転車を利用する飛沢さんは「今までヘルメツトを利用して

と、買った物など、練習を終えたあと、買い物などによく自転車を利用する飛沢さんは「今までヘルメツトを利用して

と、買った物など、練習を終えたあと、買い物などによく自転車を利用する飛沢さんは「今までヘルメツトを利用して

と、買った物など、練習を終えたあと、買い物などによく自転車を利用する飛沢さんは「今までヘルメツトを利用して

と、買った物など、練習を終えたあと、買い物などによく自転車を利用する飛沢さんは「今までヘルメツトを利用して

自転車の安全な乗り方を教えてもらったよ!

荒川自然公園の交通園で、ジュニア記者が荒川警察署の方から正しい自転車の乗り方を教わりました。交差点の渡り方や安全確認など、安全に自転車を楽しむためのルールを確認しました。



▲前列左から第三峡田小学校6年生の半田祥太くん、飛沢華穂さん。後列左から荒川警察署の鈴木守さん、福原佐江子さん、浅葉幸作さん

自転車運転免許証を知っていますか?



荒川区では、自転車を安全に乗るためのルール・マナーの向上を目指した自転車運転免許証があります。自転車運転免許証講習会で、講義・筆記試験・実技講習を受けた人に、自転車運転免許証を発行します。

自転車運転免許証講習会は、各小学校での実施のほか、毎月第3土曜日に荒川自然公園の交通園で、小学4年生以上を対象に行っています。



▲標識のある所では必ず標識に従って。標識のないところでは、一度止まって安全を確認してください



▲歩行者用の横断歩道を渡るときは、自転車を降りて押しながら渡ります



▲ヘルメットのかぶり方をチェック。「バンドがゆるんでいると危ないのもしっかりしめましょう」

◀信号のない交差点での曲がり方を練習。横断歩道を越えたあと、もう一度止まって、車が来ないかどうか安全を確認します



で、これからは安全のためにかぶりたい」と話しました。スポーツタイプの自転車に乗っている半田くんは「安全確認の仕方を教えて、とても勉強になりました」と安全運転への意識を高めました。みんなも自転車に乗るときは交通ルールを守って安全運転をこころがけよう。

第三峡田小学校

自転車シミュレーターで街中の危険を学ぶ

10月16日、自転車シミュレーターを利用した交通安全教室が第三峡田小学校で実施されました。実際の交通状況を想定して作成した街並みの映像を見ながら、自転車運転を体験。友だちの運転を見て、思わず「危ない」と声が上がること。身近な場所で事故が起きやすいこと、交通標識の意味や交通ルール・マナーなどを学びました。

▼体験終了後、自分の運転について何が危険だったか、注意点を確認しました

▲疑似体験とはいえ、しっかり右・左・後方の安全確認を行います

懐かしいあの日の時
思い出写真館

No.28

都電三ノ輪橋・荒川車庫前停留所

今から約45年前の都電・三ノ輪橋停留所付近(写真右)と荒川車庫前停留所(写真左)です。当時は、三ノ輪橋～王子駅前～赤羽を走る27系統と、荒川車庫前～早稲田を走る32系統がありました。昭和47年に27系統の王子駅前～赤羽が廃止、その後32系統と統合され、現在の三ノ輪橋～早稲田間を走る都電荒川線となりました。

▲昭和49年10月に、今の都電荒川線の路線になりました

悪い例

▶横断歩道では、歩行者が自動車に隠れて見えづらことがあります。しっかりと停車して歩行者に道をゆずりましょう

良い例

▲トラックなどの大型車両が左折する際に起きやすい巻き込み事故。特に歩道が無い場所で多く発生しています。自転車が車に巻き込まれると、会場からは「危ない!」などの声が上がりました

悪い例

▲車道の右側を、二人乗りで走っていた自転車。前から来た自転車をよけた所に自動車。とても大きな事故になりました

良い例

▲人乗りや横に並んでの運転はしない。車道を進む場合は左側を走ります

自転車事故の危険性を実感できる「スケアード・ストレイト」が第一中学校で行われました。事故現場の再現を見て、自転車の安全運転を学ぶ様子を紹介します。

スケアード・ストレイトは、荒川警察署の協力により、第一中学校で実施された「自転車安全教室」の中で行われました。プロのスタントマンが、自転車事故の様子を再現するのを見て、安全運転の大切さを学ぶというものです。

傘差しやスマートフォンを見るなどの「ながら運転」と「二人乗り運転」をしている自転車の正面衝突や、後方から来た自動車にぶつかるなどの「ながら運転」は、荒川警察署の協力により、第一中学校で実施された「自転車安全教室」の中で行われました。プロのスタントマンが、自転車事故の様子を再現するのを見て、安全運転の大切さを学ぶというものです。

最後に、荒川警察署の方から「自転車の事故は、加害者になってしまう場合があり、最悪のケース、相手手が亡くなってしまうこともあるので、ルールを守って安全な運転をしてください」とお話がありました。

事故の再現を見ることで、具体的な危険性を認識することができました。参加した生徒は「知らないルールがあったので、これからは気をつけたい」と、話していました。

第一中学校 スケアード・ストレイトで事故の危険を学ぶ